

法学部教員法科目通年用

授業科目名	担当教員	単位数
平和学 (通年)(広島・長崎講座)	川久保 文紀	4

授業目的

20世紀という時代は「戦争と革命の世紀」でしたが、平和学は、社会科学の他の隣接諸領域との学際的協力を試みながら、「戦争の諸原因と平和の諸条件」を考察していく学問的特質をもっています。冷戦崩壊後、グローバル化が急速に進展する現代の国際社会においては、地球温暖化の急速な進行、貧困と経済格差、内戦や地域紛争の勃発などの「地球的問題群」が山積しており、こうした今日的課題にも対応できるような新しい平和学の在り方も模索されています。

平和学を学ぶためには、現実の国際社会や世界構造の「隠された」現状を批判的に考察していくという基本的姿勢が何よりも必要です。本講義では、受講生みずから、20世紀の時代経験を踏まえ、暴力と平和をめぐる諸問題について考える「きっかけ」となるような講義展開を心がけたいと思います。また、視聴覚教材やレスポンスシートなども取り入れることによって、双方向的な講義になるように努めていきたいと思っています。

前 期		後 期	
第1回	20世紀の時代経験—戦争の世紀	第1回	新しい平和学
第2回	20世紀という時代①十五年戦争	第2回	「人間の安全保障」について考える①
第3回	20世紀という時代②第一次・第二次大戦	第3回	「人間の安全保障」について考える②
第4回	ニュルンベルグ裁判と東京裁判—戦争犯罪と「戦後和解」	第4回	貧困と飢餓から考える：アフリカの世紀
第5回	20世紀という時代③植民地独立と冷戦	第5回	難民の世紀：UNHCRの活動を通して
第6回	20世紀という時代④ベトナム・朝鮮戦争	第6回	資源をめぐる戦争①資源ナショナリズム
第7回	平和学とはどのような学問か①歴史と展開	第7回	資源をめぐる戦争②水をめぐる戦争
第8回	平和学とはどのような学問か②「構造的暴力」とは何か	第8回	国際正義と平和構築—正義は国境を越えるか
第9回	ヒロシマ・ナガサキから考える平和	第9回	国連と平和
第10回	オキナワと米軍基地から考える平和	第10回	子ども兵と戦争
第11回	「核密約」とは何か	第11回	地球温暖化の平和学①
第12回	「核なき世界」の理想と現実	第12回	地球温暖化の平和学②
第13回	湯川秀樹博士からのメッセージ	第13回	原子力エネルギーと平和①
第14回	9・11テロ以後の「新しい戦争」	第14回	原子力エネルギーと平和②
第15回	9・11テロ以後の監視社会	第15回	21世紀の地球市民社会

## 法学部教員法科目通年用

成績評価方法・基準	平常点 : 50% レポート : % 小テスト : % 定期試験 : 50% その他 :	テキスト・参考書	テキストはとくに指定しません。担当者が作成・配布するオリジナル・プリントにもとづいて講義を行います。参考書は随時紹介していきます。
準備学習等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代政治や国際政治の動向について、日頃からニュース・新聞等で把握しておくことが望ましい。</li> <li>・授業中のマナーに気を付けること。携帯（とくにメール）、私語は、とくに厳禁。マナーが悪い場合は、減点の対象になることはいうまでもない。遅刻についても同様である。</li> <li>・体調が悪い場合などを除き、教室の途中入退室は認めない。</li> <li>・「内職」を見つけた場合、厳しく対処します。</li> </ul>		